

浮ヶ谷孝夫

(指揮者)

1953年埼玉県川口市生まれ。世界の最前線でタクトを振る日本を代表する指揮者の一人。1978年に渡独してベルリン芸術大学指揮科のヘルベルト・アールンドルフ教授に師事。カラヤン、ハンガリー、両国際指揮コンクールで受賞。1986年にはボメラニアン・フィル(ポーランド)のドイツ演奏旅行の指揮者に抜擢され、欧州でデビューを果たした。1987年より、同オーケストラの専属指揮者に就任。多数のドイツ演奏旅行やCD録音で高い評価を得ている。1989年より「ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団」と多数のCD録音。「ポーランド国立放送交響楽団」の専属客演指揮者。1996年に「ドイツ・フィルハーモニア・フンガリカ」日本ツアー。1999年に「北西ドイツ・フィルハーモニー」日本ツアー。2001年、2005年に「ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト」日本ツアー。2003年には同楽団の首席客演指揮者に就任。2010年より愛知県豊橋市の「豊橋青少年オーケストラキャンプ」を立上げ、毎年多くの演奏家の育成に尽力。2013年より東京都主催「歴史的建造物保全プロジェクト・マエストロ浮ヶ谷プロデュース・コンサート」を担当。N響、新日フィル、日フィル、東フィル、名フィル、東京シティ・フィル、東京ニューシティ管、日本センチュリー響などと共演し、多くのファンを持つ指揮者。2019年8月に東京21世紀管弦楽団の音楽監督に就任。ドイツ在住。

東京21世紀管弦楽団

Tokyo 21c Philharmonic

音楽を通して、多くの人達と手を携え、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して演奏活動を進めて行くプロフェッショナルなオーケストラとして2019年に設立。浮ヶ谷孝夫(ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、定期演奏会では、ベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、シューベルトといった重厚なドイツ音楽で圧倒的な成功を収めている。また、青少年のための音楽鑑賞会の依頼公演に出演するほか、教育的活動にも積極的参加し、多彩で幅広い音楽活動を展開している。クラシック音楽を広く普及させる定期公演、自主公演は東京国際フォーラムホールC、東京芸術劇場を拠点とし、紀尾井ホール、サントリーホール、東京オペラシティコンサートホールなど都内の主要なホールで活動をしている。2019年オスカー新人賞を受賞したテノールのステファン・ポップ、オペラ界のビッグスター、ファン・ディエゴ・フロレス、ヴィットリオ・グリゴリオとの共演。2021年、オペラシティにて行われたベートーヴェン「第九」は、満席の聴衆を魅了し大成功を収めた。2022年6月、第18回ショパン国際コンクール第3位入賞のマルティン・ガルシア・ガルシアとの協奏曲のタベ、同年8月東京国際フォーラムホールAでのミュージカル「ラ・ラ・ランド」6回公演、11月オーチャードホールで「BBC PROMS」に出演し好評を博した。12月東京芸術劇場にて「第九」公演は多くの聴衆から高く評価された。2023年1月「ホセ・カレーラス&ブラシド・ドミンゴ」コンサートに出演し好評を博すなど、その活動の場を広げている。

隠岐彩夏

(ソプラノ)

歌曲やオラトリオに幅広いレパートリーを誇り、多くのコンサートでソリストを務めるソプラノ歌手。その清冽かつ印象的な声は、聴衆の心を捉えて離さない。岩手大学教育学部芸術文化課程卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修士、博士後期課程修了。文化庁新進芸術家海外研修員としてニューヨークにて研鑽を積む。友愛ドイツ歌曲コンクール第1位。日本音楽コンクール声楽部門第1位。三菱地所賞、東奥文化選奨受賞。インバル/東京都交響楽団(第九)、ノット/東京交響楽団(第九)、下野竜也/広島交響楽団(平和のタベ)など、数多くのオーケストラと共演。23年『愛しの夜』(キングレコード)をリリース。矢部達哉、横山幸雄両氏と共演したこのアルバムは『レコード芸術』誌等で特選盤に選出される。2025年夏に生まれ故郷の青森でスタートした「青い海と森の音楽祭」(芸術総監督:沖澤のどか)音楽主幹。

仙友恵子

(アルト)

東京学芸大学在籍後、東京藝術大学声楽科卒業、同大学大学院修了。東京ミュージック&メディアアーツ尚美ディプロマコース修了。第20回日本声楽コンクール入選。東京二期会本公演『ウリッセの帰還』『魔笛』『フィガロの結婚』『リゴレット』『イル・トロヴァトーレ』に出演。神奈川県民ホール・びわ湖ホール共催『ワルキューレ』に出演。調布市民オペラ、杉並区民オペラ、荒川区民オペラ、オペラ彩ほか、市民オペラにて『カルメン』『アイーダ』『蝶々夫人』『イル・トロヴァトーレ』『ナブッコ』『アドリアーナ・ルクヴール』『ヘンゼルとグレーテル』等、メゾソプラノの主要役で数多く出演している。2015年~2022年文化庁巡回公演『子供の為の文化芸術育成事業』にて、池辺晋一郎『てかがみ』、林光『おこんじょうり』に出演。2022年青島広志『うりこひめの夜』の初演に参加。邦人オペラ作品にも活躍の場を広げている。一般社団法人オンブラゾリスTEN運営委員。二期会会員。

田中豊輝

(テノール、合唱指揮)

国立音楽大学音楽学部声楽学科卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻(ドイツ歌曲)修了。声楽を内木邦子、佐藤峰子、眞嶋美彌各氏に、合唱指揮を辻正行氏に、合唱指導を今井邦男氏に師事。高田三郎作品の演奏について須賀敬一氏に薫陶を受ける。パッパ「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ」、モーツァルト「戴冠ミサ」「レクイエム」、メンデルスゾーン「讃歌」、ベートーヴェン「第九」などのテノールソロを務める。2016年、2018年にドイツに招かれ、ブランデンブルグ国立管弦楽団(指揮:浮ヶ谷孝夫)と共演。現在、静岡大学混声合唱団、Mille-Uno、女声合唱団「虹」、グリーンウッドハーモニー、静岡合唱団など11の合唱団の指揮者の他、ボイストレーナーとして活動。各地から招かれ、アンサンブルの指導やボイストレーニングを行っている。2016年には東京六大学合唱連盟定期演奏会の合同ステージにて高田三郎「心の四季」を、2019年には東京四大学女声合唱連盟定期演奏会の合同ステージにて新実徳英「無声慟哭」を客演指揮。NHKラジオ高校講座音楽I講師。日本合唱指揮者協会会員。

田中雅史

(バリトン)

岩手大学教育学部芸術文化課程卒業。東京藝術大学声楽科を経て、東京藝術大学大学院修士課程声楽専攻を首席修了。併せて大学院アカンサス音楽賞、小川尚子賞海外派遣奨学金を受賞。ウィーンにて短期研修を積む。令和2、3年度公益財団法人野村学芸財団奨学生。大学院在学中、東京藝術大学奏楽堂モーニング・コンサート、藝大フィルハーモニア管弦楽団合唱定期(藝大定期第413回)にソリストとして出演。第34回奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門第1位、中田喜直賞、木下記念賞(金)受賞。第93回日本音楽コンクール声楽部門(歌曲)第3位受賞。これまでにL.v.ベートーヴェン《第九》、G.F.ヘンデル《メサイア》、J.ブラームス《ドイツ・レクイエム》、G.フォーレ《レクイエム》、J.S.パッパ《ヨハネ受難曲》イエス役等のソリストを務める。オペラでは新国立劇場(小さな煙突掃除)ボブ・トム役にてデビュー。2025年よりパッパ・コレグウム・ジャパン声楽メンバー。



TOKYO INTERNATIONAL FORUM

東京国際フォーラム

東京都千代田区丸の内3丁目5番1号

【JR線】有楽町駅より徒歩1分 東京駅より徒歩5分(京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡)

【地下鉄】有楽町線:有楽町駅(B1F地下コンコースにて連絡) 千代田線:二重橋前駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩7分
丸の内線:銀座駅より徒歩5分 銀座線:銀座駅より徒歩7分/京橋駅より徒歩7分 三田線:日比谷駅より徒歩5分